

元気 いっぱい!



▲高泊小学校企画・ボランティア委員会のみなさん。



▲▶「ごみ拾い」をしたり「話し合い」をしたりと、みんなの学校生活がより良くなるよう活動しています。

高泊小学校 企画・ボランティア委員会

現在約210名の^{とまり}"泊っ子"たちが共に学ぶ高泊小学校は、緑に囲まれた高台に校舎を構える自然豊かな小学校です。そんな高泊小学校で活動する『企画・ボランティア委員会』は、4年生から6年生の12人で構成され、学校行事の企画だけでなく、「募金活動」や空き缶リサイクルのための「空き缶つぶし」など、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。

取材でおじゃましたこの日は、いきなり教室から飛び出して全員で校内のごみ拾いを開始。「みんなのために何かをすると気持ちがいいです。」と笑顔で話してくれたのは委員長の上田^{うえだ}耀平君(6年)。ごみ拾いできれいになるのは、なにも校内だけではないのかもしれませんが。今後は、毎朝校舎の入り口に立ち、登校してくる児童と朝のあいさつを交わす「あいさつ運動」を行うことも決めました。「人の役に立ちたい!」と活動する12人の爽やかな朝のあいさつで、きっとみんな気持ち良く一日の始まりを迎えることができるでしょう。

昨年12月21日、真珠幼稚園で行われた交通安全教室で紙芝居に初挑戦した『山陽地区交通指導員協議会』の中村三郎さんと西村一英さん。交通安全の啓発用紙芝居の語り手として白羽の矢が立ち、「子どもたちに見ていた紙芝居を、まさか自分が読むことになるとは。」と、戸惑いながらも引き受けることになりました。「場面に合わせて声色を変えてみると、4・5日練習しました。」と言う中村さん。普段とは勝手が違う紙芝居に緊張しながらも、園児を含めた約100人を前に、横断歩道の正しい渡り方などを紹介しました。西村さんは、「紙芝居を見た子どもが、家族と出かけた時に『道路に飛び出したら危ないんだよ』と、親に話してくれたらうれしいですね。」と、交通安全に関する家族の会話が子どもの側から大人へと広がっていくことを願っていました。

山陽地区では現在、7人の交通指導員が市から委嘱を受けて活動しています。交通量の多い交差点に毎朝立っている人を見かけたことはありませんか。交通指導員は、歩行者が横断歩道を安全に渡れるよう見守る交通立哨^{りっしょう}以外にも、今回の紙芝居のように警察署と協力しながら交通安全の啓発行事に参加したり、イベント開催時の交通整理を行ったり、身近なところで地道な活動を続けています。お二人は、「交通事故に限らず、今は子どもたちの安全が脅かされている時代。市民のみなさんが下校時間に合わせて散歩をするなど気を配ってもらえたら、交通指導員だけで見守る以上に地域の安全は高まります。」と口を揃えます。日々の安全は、このような想いをもった人たちによっても支えられているんですね。

夢 いっぱい!

「交差点の横断や
道路での飛び出しに気をつけて」



紙芝居で交通安全を呼びかけた交通指導員

中村三郎さん(常盤町)

西村一英さん(広瀬二)

※写真左から